

ゼミナール紹介

担当者名	井上裕之
e-mail アドレス	inoueh@bunkyo.ac.jp
研究室	3401
在室曜日・時限	火曜(2～3 限)、水曜(午後)、木曜(午後)
個別相談など (日時・方法)	当ゼミを志望する学生は事前にメールでご連絡下さい。 ゼミ見学希望者は、水曜2限の3年ゼミに来てください。日取りは特に決めていませんので、事前にご連絡のうえ、研究室に来室してください。
選抜方法	定員を超えた場合は、志望書と面談等で総合的に評価・選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	私の担当する授業は原則として履修していただきます。
2024 年度担当科目	文章演習 I・II 文献講読 プレゼミナール B キャリア研究 情報学特殊講義 C(テレビニュースと放送ジャーナリズム) ゼミナール 卒業研究
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●当ゼミナールはライティング(文章執筆)とジャーナリズムのゼミです。「文章による情報伝達」をテーマに、実際にさまざまな文章を書く作業を行います。「文章を書く力」はどこにいても必要とされます。その力を養いましょう。 ●3年生は、「自分の住む自治体の議会」をはじめ「自分の興味のあるものごと」「書籍(書評)」などの記事を執筆します。実際に取材をして、問題提起をする力、正確な情報を伝える力、また魅力ある文章を書く表現力を身につけます。議会報告から食レポまでさまざまなジャンルの記事に挑戦します。 ●書いた記事はゼミで発表し、他学生から意見をもらって修正します。完成したものは基本的にネット上で公開します。執筆記事はポートフォリオにして就活でも使えるようにしていただきます。 ●執筆記事は文字形式だけでなく動画形式のものも可としています。つまり、(映像を使った)音声言語の媒体も対象とします。 ●新聞記事を読み込む力を身につけます。毎回、興味のある記事を取り上げる作業を通して、時事問題に強くなっていただきます。 ●4年次には「卒業論文」か「卒業制作」かを選べるゼミです。 ●私自身の専門は、ジャーナリズム、言語学、テレビ、メディア論です。社会学、映像学など隣接領域にも触れながら、幅広い学びをしたいと考えています。 ●向いている学生・・・文章(ノンフィクション)に興味がある人、時事問題やネットの(文字・動画)記事に興味がある人

ゼミナール紹介

担当者名	岡野雅雄
e-mail アドレス	okano@bunkyo.ac.jp
研究室	3210 室
在室曜日・時限	水曜日(午後;会議時間以外)・木曜日(1、2 時限 昼休み) 念のため、相談希望の方は まずメールにてお問合せください。
個別相談など (日時・方法)	まずメールにてお問合せください。必要に応じて、個別相談をしたいと思います。Zoom も可能です。
選抜方法	もし定員以上となったら、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜しま す。
ゼミナールに 関連する科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論
2024 年度担当科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論、基礎演習A、ゼミ ナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	<p>◆本ゼミナールの<u>基本的なテーマ</u>は、「言語あるいは記号によるコミュニケーション」です。</p> <p><u>最終的な到達目標</u>は、<u>各自の設定したテーマについて必要な資料やデータを集めて分析し、論文を作成する能力を身につける</u>ことです。論文を作成することで、原稿用紙換算で 50 ページ以上のしっかりした文章を執筆する能力を身に付けていただきたいと思います。</p> <p>「卒業研究」で論文を書くことを前提にゼミを進めてゆきますので、ゼミ選択の際には注意してください。</p> <p>◆ゼミナールの<u>具体的な進め方</u>は、以下のとおりです。</p> <p>春学期は、コミュニケーションに関する文献を購読します。そして、その内容にもとづいて発表し、討議します。秋学期は、より卒論を意識して情報収集・購読・討議を行います。</p> <p>その過程で、以下にあげるような知識・技能を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none">レジュメ作成の方法、口頭発表の仕方、新聞・雑誌記事の検索、調査結果のまとめ方、グラフや表の作成、問題発見(リサーチ・クエスチョンの設定)、原稿執筆のためのアウトライン作成・論文の構成・校正等

ゼミナール紹介

担当者名	奥村真司
e-mail アドレス	okumuras@bunkyo.ac.jp
研究室	3307
在室曜日・時限	火曜日(2時限)・水曜日(午後;会議時間以外)・木曜日(2,3時限) 上記時間でも校務で不在の場合もありますので、相談および面談希望の方はまずメールにてお問合せください。
個別相談など (日時・方法)	メールにてお問合せください。
選抜方法	本ゼミ志望の方は、 <u>教員との面談を必ず受けてください。対面での個別相談を受けない学生は選抜対象外となります。</u> ※面談の詳細については、メールでお問い合わせください。 希望者が定員を超える場合には、志願理由書・面談の内容および成績(出席状況を含む)によって選抜します。
ゼミナールに関連する科目	英語 IA, IIA、異文化コミュニケーション
2024 年度担当科目	英語 IA, IIA、基礎演習 A、異文化コミュニケーション、ゼミナール I, II、卒業研究 I, II
授業概要	【ゼミナールのテーマ】 「メディア表現×異文化コミュニケーション—日本文化を世界へ発信しようプロジェクト」 グローバル化が進む中で、日本文化の多様な側面が世界中に広がりつつあります。では、海外の人々が感じる日本の魅力とは何でしょうか？そして、特に人気を集めているものは何でしょうか？このゼミでは、伝統文化やポップカルチャーなど、日本文化のさまざまな魅力を考察します。また、対面またはオンラインで海外の大学生と交流し、日本文化の魅力を伝えるとともに、異文化間のコミュニケーションを深める機会を提供します。

ゼミナール紹介

担当者名	勝久晴夫
e-mail アドレス	katsuhisa@bunkyo.ac.jp
研究室	3304
在室曜日・時限	火、水、木（前日までにメールにて予約）
個別相談など （日時・方法）	メールにて連絡をしてください。必要に応じて対面あるいは Zoom により、個別相談をしたいと思います。
選抜方法	ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、著作権ビジネス論、映像コンテンツと著作権
2024 年度担当科目	基礎演習 A、情報社会と法、現代社会と著作権、著作権ビジネス論、映像コンテンツと著作権、日本国憲法、ゼミナール I・II
授業概要	<p>・本ゼミナールでは、メディア表現について、著作権法を中心とした法律面から研究します。作品の制作からビジネス展開までの各場面で生じる法律問題に適切に対処できる知識と能力を持ち、戦略的に知的財産法を活用できる人材の育成に取り組みます。</p> <p>近年では、作品制作の段階で AI 技術を活用することが急速に広がっているが、このような新しい技術を活用する際に生じる法律上の問題についても研究をします。</p> <p>・著作権法等の法律の知識が不十分であることを前提に、春学期は、音楽や映画、漫画やゲームなど身近な作品を題材にして基礎的なところをレクチャーします。この期間に秋学期にゼミ報告をするテーマを選定してもらいます。</p> <p>・秋学期は、各自が選定した研究テーマについて、ゼミ発表をしてもらいます。ゼミ発表に際しては、研究テーマに関連する資料を調査した上で、「問題の所在」「法律・判例・学説等の現状」「検討」「私見」「今後の展望」という形でまとめて発表してもらいます。</p> <p>・卒業研究では、「卒業論文」を執筆し、提出してもらいます。この卒業論文の題材は、ゼミナール II でゼミ報告をしたものと同一でもいいですし、それ以外のものを新たに研究テーマとしてもいいです。</p> <p>・「論文」の形式にするために必要な手順などは卒業研究 I で解説します。</p> <p>・卒業研究 II では、卒業論文執筆のためのサポートを行います。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	清水一彦
e-mail アドレス	shimizu1@bunkyo.ac.jp
研究室	5404
在室曜日・時限	月曜日、火曜日、水曜日。
個別相談など (日時・方法)	月曜日 5 限終了後。火曜日 12:30～13:00、4 限、水曜日は 10:10～10:40、12:30～13:00。このスケジュール内で、前日までにメールでアポを取る。 対面での個別相談を受けない学生は選抜しません。
選抜方法	志望書（希望理由、自己 PR など 1000 字以内）、成績、面接。
ゼミナールに 関連する科目	3 年次終了までに必修：出版論、出版文化論（6 セメ）、記事制作 I 推奨：出版演習、写真表現、情報表現デザイン
2023 年度担当科目	出版論、出版文化論、出版演習、記事制作 I、記事制作 II、マス・コミュニケーション論、プレゼミ A
授業概要	<p>○将来、出版業界やメディアで仕事をしたい学生を対象としたゼミナールです。</p> <p>○就職実績は、出版社、ウェブコンテンツ制作会社、広告会社、エディトリアルデザイン会社などです。</p> <p>○3 年次に雑誌を作り、4 年次には卒業論文を書きます。</p> <p>編集を実践し、さらに出版学分野での卒業論文を完成させ、出版社やメディア、マスコミ関連企業の就職試験で勝負ができるようにします。そのために、デジタルも含めたあらゆる出版物の制作に応用がきく雑誌つくりと、出版コンテンツの</p>

内容分析など出版の学術的な研究をします。多量の出版物の講読もします。雑誌・書籍購入、取材費用、そのほか体験的な学習費用はケチらないこと。自分の可能性を広げる今しかできない自己投資です。雑誌づくりや研究は本気で取り組まないと落ちこぼれます。覚悟をした上でゼミに参加してください。

2年の冬からゼミを開始します。出版物の内容分析と出版学の知識を習得しながら、各自が選んだテーマの研究プレゼンテーションをします。その後、3年の夏前から冬にかけて、64～72ページ程度の本格的な雑誌づくりをします。出版業界のプロに見せても恥ずかしくないレベルを目標します。企画、取材、撮影、デザイン、DTP、執筆、印刷など、一連の編集作業をすべて学生自身でおこないます。撮影機材、デザイン用パソコンとソフト、印刷機は用意してありますが、資料購入費、取材経費、旅費・交通費などは自己負担となります。

3年終了時までのゼミ活動の拘束時間は長くなります。雑誌づくりは週1回の授業時間内では終わりません。また、雑誌づくりはチームプレイです。編集技術と同時にコミュニケーション力も養います。授業時間以外にもゼミ活動があります。とくに、3年の秋はアルバイトを極力減らすこと。

4年生の卒業研究では、卒業論文を書きます。テーマは出版に関連することなら、産業、歴史、コンテンツ論、メディア論など幅広い範囲から各自の興味にしたがって選べます。ただし、学術論文としての完成度を求めます。1年間じっくり研究に取り組みます。雑誌完成後から4年の春にかけてテーマの設定と文献精読、プレゼンテーションを経て、夏休み前に第1回中間発表会。夏休み明けに草稿提出。年内に完成稿提出。年明けに研究発表会です。

ゼミナール紹介

担当者名	白土由佳
e-mail アドレス	yuka@bunkyo.ac.jp
研究室	3402
在室曜日・時限	水、木、金（来訪の際は事前に連絡をください）
個別相談など （日時・方法）	ゼミナールはいつでも見学可能です。水曜 2 限に 3107 教室にいらしてください。 まれにオンラインの際があるため、見学の際は事前に連絡をください。 個別相談は随時受け付けています。日程調整のためメールで連絡をください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談にて選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2024 年度担当科目	卒業研究、ゼミナール I・II、ソーシャルリスニング、ソーシャルメディア論、デジタルメディア論、コンテンツ発想法、基礎演習 A
授業概要	<p>■ 概要</p> <p>本ゼミナールでは、ソーシャルリスニングというアプローチを学び、みなさんの身の回りにある様々なおもしろいことの分析を通じて、私たちは今、どのような社会に生きているのかを考えていきます。</p> <p>ソーシャルリスニングとは、ソーシャルメディア上などで自然に発生した人々の会話や行動などを分析し、人々の実生活に基づいた意見を活用することです。トライアンドエラーを繰り返しながら、探索的なデータ分析を楽しんでいきましょう。</p> <p>■ 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R や GoogleColaboratory、KHCoder など、データ分析ツールが使用できる。 ・ ソーシャルリスニングの一連の流れを理解し、実践することができる。 <p>■ スケジュールと研究テーマ例</p> <p><u>3 年生</u>: 春学期は、毎年任意のテーマに基づき実践的にソーシャルリスニングの流れを学びます。秋学期は、毎年 1 月頃に開催される学会の学生教育研究部会（他大学と合同の研究発表会）を目指してグループ研究に取り組みます。4 年生の卒業研究の中間・期末発表にも参加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脱プラ活動における国民の反応—Twitter と Instagram の比較から— ・ コロナ禍の漫画に対する関わりの変化—鬼滅の刃から読み取る— ・ SNS とファンコミュニティにみる現代アイドルの実態分析 ・ 実況者とそのファンの関わり方 <p><u>4 年生</u>: 卒業研究と、3 年生へのアドバイザーとしてグループ研究をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洒落怖と怪談話における構成の違い ・ ライブ内容と環境に依る受け手の変化と違い ・ 実況ツイートにおけるスポーツと e スポーツ ・ 若者とインターネットスラングの使用状況について

ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@bunkyo.ac.jp
研究室	3411
在室曜日・時限	担当科目が多く、連続しているためは不在の場合が多いので、予約の上で、 担当教員との一対一での相談希望の方は個別相談会に参加してください。
個別相談など (日時・方法)	<p>○ゼミ説明会Ⅰ（授業内容、ゼミ活動） 10月3日（木）12時30分～13時00分 3114教室</p> <p>○ゼミ説明会Ⅱ（卒業後の進路について） 10月8日（火）12時30分～13時00分 3114教室</p> <p>※ゼミ説明会は予約の必要はありません。興味のある方は足を運んでください。</p> <p>○ゼミ見学会－9月24日（火）、10月8日（火）3限目のTVスタジオでのゼミ活動は見学できます。</p> <p>○個別相談会－希望者には個別に相談を受けます。※希望者数によって日程調整</p> <p>○ゼミの映像作品の上映会－10月3日～10月11日の昼休み、3114教室 ※予約必要なし、上映スケジュールの詳細は10月以降に3114教室入口に掲示</p> <p>※ゼミ見学会、個別相談会を希望する場合は、必ず担当教員にメールで予約してください。</p> <p>※志望する場合は、上記の説明会や個別相談会でゼミの教育方針や活動内容を十分に理解した上で志望してください。是非とも、4年、3年の竹林ゼミ生に、学生の視点からのゼミの授業内容や課外活動についての話を聞いてください。</p>
選抜方法	志望者が多すぎる場合は、面接や簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに関連する科目	<p>3 セメスターまで</p> <p>○演習系科目 「映像表現Ⅰ」、「映像編集演習」、「映像技術演習Ⅰ（ENG）」、「テレビ企画構想演習」、</p> <p>4 セメスター以降</p> <p>○演習系科目 「映像表現Ⅱ」、「スタジオ番組制作」</p> <p>○講義系科目 「映画史」、「アート映像論」、「ドキュメンタリー論」、「映像表現論」、「映像プロデュース論」</p> <p>※ゼミ選択までに「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「映像編集演習」等の竹林ゼミの履修に必要な専門科目を履修できていない志望者は、個別相談会で、竹林に相談をしてください。</p>
2023年度担当科目	<p>春学期 「卒業研究Ⅰ」、「ゼミナールⅠ」、「映像表現Ⅰ」、「ドキュメンタリー論」、「放送論」、「テレビ企画構想演習」、「映像プロデュース論」「映像メディア特論」（大学院）、「情報学特別演習Ⅰ」（大学院）</p> <p>秋学期 「卒業研究Ⅱ」、「ゼミナールⅡ」、「映像表現Ⅱ」、「映像メディア論」、「映像表現論」、「映画史」、「スタジオ番組制作」</p>

授業概要	<p>竹林ゼミナールでは、テレビや映画を網羅した映像業界と連携し、プロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行います。そして、毎年、卒業時に、ほぼ全員がテレビや映画を中心に映像のプロフェッショナルとして、憧れや夢のスタートラインに立っています。</p> <p>具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し、映像表現への理解を深めると共に、課題として映像作品の制作に取り組みます。同時進行で、それぞれが希望する企業や団体の内定獲得のための就活指導も行い、憧れや夢を「現実」のものとしてもらうために日々努力してもらいます。</p> <p>課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつことです。そして、優れた作品は映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡しをします。</p> <p>内定獲得にもつなげるゼミの課外活動の一環として、日本テレビやフジテレビ等で行うテレビ局研修があります。テレビ局内の様々な放送施設を見学し、局内のスタジオやサブルームで生放送番組を体感する研修です。劇映画やTVドラマを志望するゼミ生に向けては、東映大泉撮影所で行う映画撮影所研修があります。撮影所のスタジオで行われる映画やドラマの撮影を体感し、俳優や監督などの専門スタッフと交流します。撮影所の編集スタジオで、SFX（特殊効果）やVFX（視覚効果）等を実践的に学びます。このような制作現場でのプロとの交流は3年の秋からスタートするゼミの就活支援においても有効に機能します。</p> <p>また、ゼミ生全員参加で毎年、合宿形式の研修を行いました。2024年度は、9月9日から9月12日までの3泊4日で実施しました。ゼミ生全員で、映像業界の喫緊の課題である映画フィルムのアーカイブ、そして、ビデオ映像のマグネティック・テープ・アラートに対応したデジタイズについて体系的に学びました。</p> <p>この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映画祭や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定しています。さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行います。</p> <p>このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい人には向かないゼミです。</p>
------	---

2024/10/11追記

竹林ゼミの紹介（追加）

1 「映像表現Ⅰ」と「映像表現Ⅱ」の履修について

映像表現のゼミナールですから、入学時のガイダンスからお伝えしてきたように「映像表現Ⅰ」と「映像表現Ⅱ」を履修している人が望ましいです。

ただし、テレビ業界や映像業界で活躍したいという強い志を持っていて、それを「現実」のものにするための努力をしている人は同様に認めます。例えば、「作品」のような形で示せばより分かりやすいです。

2 映像の編集スキルについて

現時点で映像の編集が出来なくても大丈夫です。基礎演習などで編集ソフトの説明を受けただけでも問題はありません。毎年、ゼミの3年春学期にグループ制作をします。ここで聞くなどして、自分で出来るようになっていきます。

ただし、3年春学期に「映像編集演習」を履修してもらえればより映像表現への理解が深まります。現時点でゼミでは編集ソフトに指定はありませんが、映像業界に進む場合は、ゼミ在籍時に「Premiere Pro」や「After Effect」を習得することを勧めています。

3 定員オーバーの際の選考について

竹林ゼミナールでは個別指導を行うため、希望者が定員13名を大幅にオーバーした場合は、選考を行います。選考の方法は、（竹林が入院およびハビリ中のため）10月下旬になると思いますが、オンラインでの面接かそれに代わるレポート、授業の出席状況や成績、簡単なテスト等とします。

4 現役ゼミ生へのメール質問

それから、竹林ゼミについて知りたいことや気になることなどありましたら、

竹林ゼミ生もゼミを志望する皆さんの質問に答えてくれます。

宜しければ、メールで遠慮なく聞いてください。

竹林ゼミ 4年本田幸大君 c1p51084@bunkyo.ac.jp

4年 池田功平君 c1p51008@bunkyo.ac.jp

3年攬上緋音(かくあげあかね)さん c2p51025@bunkyo.ac.jp

ゼミナール紹介

担当者名	ボブ田中
e-mail アドレス	bobtanak@bunkyo.ac.jp
研究室	3404
在室曜日・時限	基本は月曜日、水曜日、金曜日の午後、在校しています。
個別相談など (日時・方法)	ゼミ見学と個別面談を希望する際は、事前にメールで連絡をください。 ■ゼミ見学 毎週水曜日 2 限 10:50~12:20 です。一度見学することをお勧めします。 ■個別面談 ゼミ希望者は必ず「個別面談」を受けてください。基本は対面で行います。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談結果と成績をベースに選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	ボブ田中が主担当する全科目。特に、「コミュニケーションプランニング論」 「企画書の書き方とプレゼンテーション」
2024 年度担当科目	広告概論、コミュニケーションプランニング論、コミュニケーションメディア論、マーケティングコミュニケーション、企画書の書き方とプレゼンテーション、プレゼミナールA、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ
授業概要	■テーマ：「課題発見と解決を行う実践型コミュニケーション」 ■概要：実際の企業や社会の課題に対して、コミュニケーション視点で解決策を考え実施することを目指します。①情報収集と分析、②課題発見、③アイデア拡散と収束、④論理的なストーリー構築、⑤企画書作成、⑥プレゼンテーション、⑦実施制作進行管理などの一連の流れの中で、社会で生き抜くコミュニケーション力も養っていきます。ゴールは、卒業時に社会でも通用する企画書が書けることです。 ■ゼミナールⅠ・Ⅱ（3年次）：企業からのオリエンテーションを受け、複数の「チーム」で課題発見と解決策を考え、企業担当者にプレゼンテーションまで行います。2024年度は、「モーニングター」からのオリエンテーションを受け、プロモーション企画のプレゼンテーションを目指しています。 ■卒業研究Ⅰ・Ⅱ（4年次）：「個人」でプロジェクトを立ち上げ実践します。論文執筆はありませんが、社会でも通用する緻密な企画書作成とその実践が求められます。 ■合宿研修：3年と4年のゼミ生合同で、地方の企業訪問や現場視察を目的とした宿泊を伴う研修を行います。2024年度は山形の畜産農家を訪問しイベント企画と実施を行いました。 ■就職活動：広告会社（マスメディア・デジタル）やPR会社、イベント企画制作などへの就職が多いです。随時、個別に就職面談を行います。また、ゼミ内で自らが書いた企画書を武器に就活にのぞんでもらいます。 ■その他：やるべきことが多いので、授業時間外にチーム及び個人の両方において多くの課外活動が求められます。チームのメンバーと協力して活動ができるコミュニケーション力のある人、ゼミで精一杯頑張りたいと思う人、待ってます。時間管理に重点を置いていますので、遅刻する人や1回くらい休んでもいいと思う人には向いていません。

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 (日時・場所)	説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは zoom で個別面談をおこないます。 *メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	教室などの詳細は未定のためメールにて連絡してください。
選抜方法	選抜方法は面接や GPA などを総合的評価し選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2024 年度担当科目	基礎演習 B、インタラクティブメディア概論、情報表現デザイン、ミュージックビデオ制作 A、動画配信演習、Web デザイン
授業概要	<p>本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、従来の表現方法にとらわれない新しい視覚伝達の可能性を探求します。映像、紙、Web といった様々なメディアを横断的に学び、幅広い表現力と情報発信力を習得することを目指します。現代のメディア環境では、多様なプラットフォームに応じた表現が求められるため、この横断的な学びが重要です。</p> <p>技術や知識の習得だけでなく、グループワークを通じたコミュニケーション能力や協働力の向上にも重点を置いています。チームでの作業を通じて、実社会でのプロジェクト遂行に必要なスキルを実践的に学びます。</p> <p>最終的な到達目標は技術力だけでなく柔軟な発想力、多様なメディアを活用した表現力、そしてプロジェクトを成功に導くためのチームワークの重要性を学び、即戦力となるスキルと知識、経験を修得することを目指しています。</p> <p>*詳細は下記を参照してください。 https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</p>